

AIDA モデルの起源に関する探索的学説史研究

申請区分

個人研究

研究期間

2020年4月1日 ~ 2021年3月31日

研究代表者

関西大学・商学部・教授・岩本 明憲

成果の概要

2020年度は新型コロナウイルスによる世界的パンデミックに伴う研究・教育環境の激変によって、当初予定していた研究計画は大幅に変更を余儀なくされた。とりわけ、国内外の出張は中止を余儀なくされ、資料の渉猟・収集活動及び国内・国際学会等への投稿も見合さざるをなくなった。

その中で、AIDAモデルの起源に関する定説(「1898年 Lewis 説」)を裏づける証拠の発見ができず、逆に、それを反証する間接的証拠が幾つか発見された。具体的には、AIDAモデルが定式化された1900年代から1910年代の米国において、Elmo Lewisは広告業界で盛んに言論活動を行っていたものの、AIDAモデルに関連する論考や、自身がその主唱者であったことの示唆や主張を一切残していないという学説史上の事実である。1898年におけるAIDAモデルの原型とは言い難い僅かな主張によってElmo LewisをAIDAモデルの発案者と認定するのは相当な「こじつけ」であり、しかも、その仮説を提示・流布したStrong(1925)はLewis(1898)を直接引用したのではなく、Lewisの業績を過剰に評価した何らかの間接的証拠を(原典を確認することなく)誤って引用した可能性が浮上している。少なくとも管見の限りにおいて現存する当時の米国における全ての資料が当該仮説を支持するものではなく、むしろ反証事例で占められている以上、当該仮説は学説史的に棄却されるべきことが明らかにされつつある。

このような結論は、更なる資料的裏づけによって確証的なものになった時点で、2021年9月に創刊される日本マーケティング史学会の査読付き機関誌『マーケティング史研究 (Japan Marketing History Review)』への投稿を予定している。当該学術誌は、マーケティングの歴史や学説史に関心が高いヨーロッパの研究者とも繋がりと交流を持つジャーナルであり、当該研究成果を世界的に徐々に発信・浸透させていく上で現時点において最も有効な媒体であると考えられるからである。論文は、査読を通過すれば2021年度内に掲載許可が下りる予定である。



実施成果

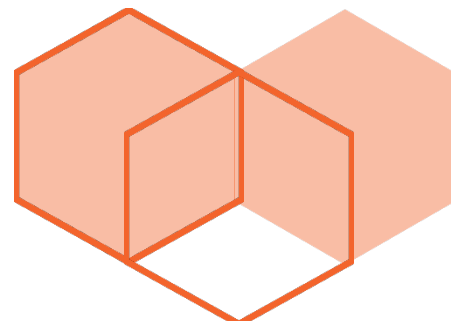
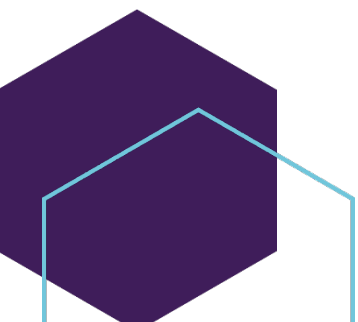
〔雑誌論文〕 計（ 0 ）件 うち査読付論文 計（ 0 ）件
（著者名、論文標題、雑誌名、巻、発行年、最初と最後のページ、査読の有無）

〔学会発表〕 計（ 0 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件
（発表者名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所）

〔図 書〕 計（ 0 ）件
（著者名、書名、出版社、発行年、総ページ数）

〔出 願〕 計（ 0 ）件
（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

〔取 得〕 計（ 0 ）件
（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）





ワークシートと映像コンテンツを活用した部活動の実践研究

申請区分

個人研究

研究期間

2020年4月1日 ~ 2021年3月31日

研究代表者

関西大学・人間健康学部・教授・神谷 拓

成果の概要

本研究の目的は、生徒主体の自治集団活動を促進する目的で開発された、運動部活動のワークシート

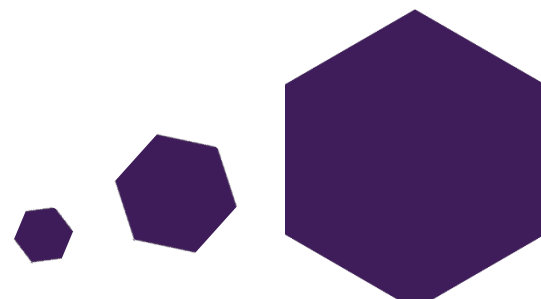
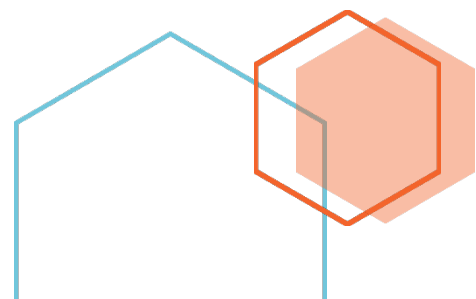
(Club Intelligence Work-seat : CIW) と映像コンテンツ (Club Intelligence Seminar : CIS) を活用することで、実際の運営や生徒の意識において、どのような変化が生じるのかについて明らかにすることである。

本実践研究の調査対象校と人数を示したのが表1であり、CIW はそれぞれの部活動から1枚ずつ回収している。調査を進めるにあたって、まず、実践校において①調査の目的や方法と、個人情報の取り扱い等について説明した。次に、②ワークショップに取り組む前に、生徒にプレ・アンケートに答えてもらった(表2)。その後、③CIW と CIS を活用したワークショップに取り組んでもらい、ワークショップ終了後には、④作成された CIW に基づく運営を1ヶ月以上継続した後、⑤生徒にポスト・アンケートに回答してもらった(表2)。

調査の結果、課題解決の変化に関しては、①新たな課題解決の主体として生徒が加わったり、これまでよりも生徒が主導権をもったりする「生徒参加」パターン(36.9%)、②教師から部活動指導員・外部指導者のように課題解決の主体が変化する「大人間の変化」パターン(1.2%)、③新たな課題解決の主体として教師や部活動指導員・外部指導者が加わったり、これまでよりも大人が主導権をもったりする「大人参加」パターン(4.8%)に大別できた。これらの結果から、今回の実践研究が、生徒を部活動の運営に参加させ、課題解決の主体としての行動を促す契機になったことがうかがえた。とりわけ、これまででは教師のみで意思決定をしていた部活動の課題に、生徒が参加することを促す傾向が見て取れた(29.8%)。なお、プレ・ポストアンケートに関しては、いずれの質問項目においても、プレ・ポスト間で統計学的に有意な変化は認められなかった。本来ではあれば、この予備調査を基盤にして、2020年度中に本調査に取り組む予定であったが、コロナウィルス感染症の影響により、遂行できなかった。そのため現在は、この予備調査のデータを基にして、研究成果をまとめている。

表1 調査対象校と人数

高校名略称	公立・私立	部活動の名称	生徒数	教員数
TN	公立	男子ソフトテニス部	21	2
KH	私立	女子バレーボール部	23	2
		男子硬式野球部	40	1
		ハンドボール部	30	1
合計			114	6



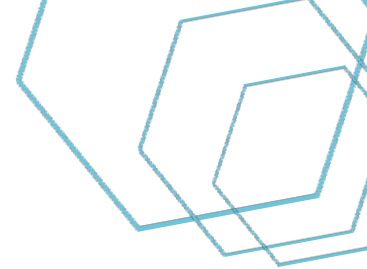
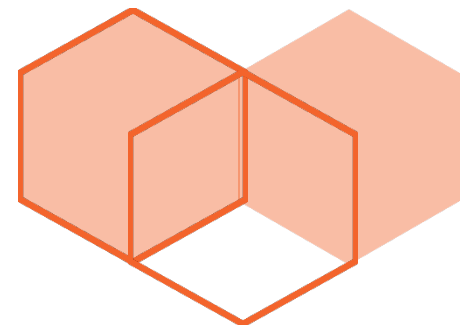
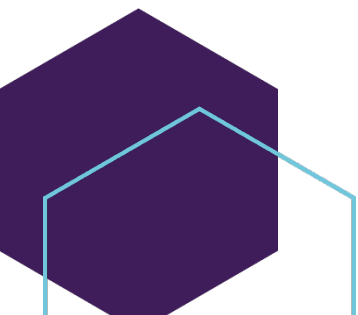


表2 プレ・ポストアンケート（5件法）の質問項目

あなたが所属している部活について、最も近いものを選び各行の数字に○をつけてください。	あなたが日頃の学習で心がけていることについて、最も近いものを選び各行の数字に○をつけてください。
生徒間のコミュニケーションはうまくいっている	何から学習をしたらよいか順番を考えるようにしている
顧問とのコミュニケーションはうまくいっている	計画や目標を決めて学習するようにしている
自分の意見や考えを述べる機会がある	学習の計画がうまく進んでいなければ見直すようにしている
部員の1人として所属している実感がある	重要なところがどこかを考えて学習するようにしている
部活動で生じる課題を自分たちで解決している	習ったことどうしの関連をつかむようにしている
先生は部員の考えを理解している	ただ暗記するのではなく、理解して覚えるように心がけている
部員は先生の考えを理解している	テストでできなかった問題は、あとからでも解き方を知りたい
目指す目標が全員で共有できている	なぜそうなるのかわからなくても、答えがあつていれば良いと思う
試合・コンクールなどの成績に満足している	なぜそうなるかはあまり考えず、暗記してしまうことが多い
部活の場で成長できている実感がある	何が分かっていないかを確かめながら勉強をするようにしている
部員が皆、自立的に行動できている	答えを出すだけでなく、考え方があつていたかが大切だと思う
社会で役に立つ力が身についている実感がある	
部活動全体に満足している	



実施成果

〔雑誌論文〕 計（ 0 ）件 うち査読付論文 計（ 0 ）件
（著者名、論文標題、雑誌名、巻、発行年、最初と最後のページ、査読の有無）

〔学会発表〕 計（ 1 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件
（発表者名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所）

- 1 神谷拓・平澤実、「ワークシートと映像コンテンツを活用した部活動の実践研究」、日本部活動学会第3回大会、2020年7月5日、兵庫教育大学（web開催）

〔図書〕 計（ 0 ）件
（著者名、書名、出版社、発行年、総ページ数）

〔出願〕 計（ 0 ）件
（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

〔取得〕 計（ 0 ）件
（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

満州地域の碧霞元君信仰 – 満鉄調査資料を手がかりに –

申請区分

個人研究

研究期間

2020年4月1日 ~ 2021年3月31日

研究代表者

関西大学・東西学術研究所・P D・二ノ宮 聡

成果の概要

本研究は、中国を代表する女神の一人である碧霞元君（へきかげんくん）について、20世紀前半、つまり清末から民国時期（満州時期）の中国東北部（満州国一帯）における信仰状況について調査した。

当初の計画では、文献資料による当時の状況の調査、および現地調査による現在の碧霞元君廟調査の2つから研究を進める予定であった。しかし、2020年はコロナウイルスの影響で海外調査の実施が不可能となってしまったため、文献調査のみで研究を進めた。

碧霞元君はもともと華北一帯で盛んに信仰された女神である。しかし、満州一帯でも北京に劣らぬほどの活気を見せていた。その理由は、満鉄は鉄道の敷設や都市開発を進める際に単に街作りをするだけでなく、現地の文化や宗教などを積極的に利用したためである。そのため満州の碧霞元君に関する調査資料は多く残されているが、大部分が日本語資料のためか、現在まで研究はほぼ未着手である。よって本研究では、これら資料を用いて、満州の廟会を中心に碧霞元君信仰について研究した。

研究の対象としたのは、満州の碧霞元君廟でも特に著名な大石橋・北山・鳳凰山の東北三大廟会のうち、北山と鳳凰山である。大石橋について筆者は以前に論文を発表しているため対象外とした。北山は現在の吉林市、鳳凰山は丹東市に位置しており、満鉄では交通の要衝でもあった。

よって本研究では、日本語資料を頼りに、これら廟会の歴史や活動内容について検討し、満州での廟会活動の位置づけや意義について考察した。そして、これら廟会は、もともとは別の寺廟が存在していた場所に、後の時代に碧霞元君信仰が持ち込まれると、既存の寺廟や信仰に取って代わる、または融合していき、地域ごとに特色ある信仰活動が実施されていたことがわかった。

本研究は、満州地域の碧霞元君信仰を対象としたものではあるが、北京の信仰内容とも違うことが明らかになり、今後の碧霞元君の地域別信仰状況研究に大いに役に立つと考える。

実施成果

〔雑誌論文〕 計（ 1 ）件 うち査読付論文 計（ 0 ）件

（著者名、論文標題、雑誌名、巻、発行年、最初と最後のページ、査読の有無）

- 1 二ノ宮聡「満州の廟会－満鉄沿線の娘娘廟会－」（研究ノート）、『関西大学中国文学会紀要』42号、151-164頁、2021年3月31日、査読無し

〔学会発表〕 計（ 2 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件

（発表者名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所）

- 1 二ノ宮聡、「伪满时期的碧霞元君庙会——以凤凰山、北山为例」、2020 東亞人文論壇—東方文明與儀軌國際學術會一、北京大学宗教文化研究院主催、2020年10月3日、於北京大学（オンライン開催）、中国語
- 2 二ノ宮聡、「宝巻から見る明末清初の碧霞元君信仰」、日本道教学会第71会大会、2020年11月14日、於立教大学（オンライン開催）

〔図 書〕 計（ 0 ）件

（著者名、書名、出版社、発行年、総ページ数）

〔出 願〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

〔取 得〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

EU 圏における汚職に関する諸問題

申請区分

個人研究

研究期間

2020年4月1日 ～ 2021年3月31日

研究代表者

関西大学・法務研究科・教授・佐川 友佳子

成果の概要

昨年度は、申請当時は全く予想していなかった新型コロナウイルス感染拡大に伴い、海外渡航が困難となり、予定していた EU 圏における現地調査等ができなくなるという状況に陥った。海外出張を前提とした研究計画を企図していた自身の計画の甘さを反省するとともに、代替手段として、日本からも利用可能なデータベース等を利用した情報收拾を模索するとともに、現地の実務家、研究者との連絡を取り、EU の汚職に関してできる限り現状等を把握することに努めた。例えば、ドイツの検察庁勤務の実務家、ミュンヘン大学の Helmut Satzger 教授、ハレ大学の Joachim Renzikowski 教授らとは研究会を通じた意見交換を実施し、EU 圏の汚職に関する様々な情報、知見を得た。その中でも EU レベルの汚職を規制する上で非常に重要であり、2020 年に創設された欧州検察庁（European Public Prosecutors Office :EPPO）に関する様々な情報、例えば参加を巡る各国の動きや今後の様々な課題についてご教示賜った。EPPO は汚職の他にも EU レベルの詐欺、横領など、国境を越えた EU 固有の財源を侵害する事件について、より大きな枠組みで対応しようとするものであり、刑事司法協力の組織的強化を図ったものである。このことは、当然、従来の国内レベルでの利害を前提とした捜査・訴追とは衝突する側面を有し、実際、そうした懸念から参加を見合わせた国も存在するとのことであった。この新しい組織を巡る課題については、国境を越えた汚職の捜査・司法共助という面で、日本も参考になる点が多々あり、また今後の他国との連携を図る上でも非常に重要となる示唆を多数含んでいる。以上、実務家、研究者の交流によって得られた知見を基に、現在の日本の刑事法との整合性を維持しつつ、国際的な協力枠組みをいかに構築していくかについて、検討している状況であり、こうして得られた研究成果は、随時、紀要等で公表していく予定である。

実施成果

〔雑誌論文〕 計（ 2 ）件 うち査読付論文 計（ 0 ）件

（著者名、論文標題、雑誌名、巻、発行年、最初と最後のページ、査読の有無）

- 1 佐川友佳子、「司法に対する罪の共犯関係・親族関係」、法学教室、477号、2020年、27-30頁、
（査読無）
- 2 （翻訳）佐川友佳子、「マリア・フォン・ティッペルスキルヒ 海外腐敗行為防止法（FCPA）による
企業処罰」、ノモス46号、2020年、115-138頁、（査読無）

〔学会発表〕 計（ 0 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件

（発表者名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所）

〔図 書〕 計（ 1 ）件

（著者名、書名、出版社、発行年、総ページ数）

- 1 （共著）斎藤豊治・浅田和茂ほか、編『新経済刑法入門』、2020年、485頁

〔出 願〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

〔取 得〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

熟成処理温度の違いが食肉の呈味成分の生成に及ぼす影響 アミノペプチダーゼ活性に及ぼす影響

申請区分

個人研究

研究期間

2020年4月1日 ~ 2021年3月31日

研究代表者

関西大学・化学生命工学部・准教授・細見 亮太

成果の概要

本研究では、食肉の熟成温度の違いによる総遊離アミノ酸濃度の変化および遊離アミノ酸生成に関するアミノペプチダーゼ活性に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

まず氷温熟成（-1℃）およびチルド熟成（+4℃）処理が豚肉の総遊離アミノ酸濃度に及ぼす影響を評価した。その結果、両試験区で総遊離アミノ酸濃度の生成速度は大きな変化は見られなかった。また、腐敗の指標の1つである一般生菌数が同等のチルド熟成 14日および氷温熟成 42日を比較すると、氷温熟成 42日で総遊離アミノ酸濃度が高かった（成果論文）。氷温およびチルド熟成中の総遊離アミノ酸の生成速度が同等であるのは、熟成中の遊離アミノ酸の生成に関するアミノペプチダーゼ活性が変わらないことに起因すると考えた。

次に豚肉ホモジネート液を粗酵素液として、チルドおよび氷温でのアミノペプチダーゼ C および H 活性を測定した。その結果、予測していた仮説とは異なり、氷温はチルドと比較して、アミノペプチダーゼ C および H 活性が約 80%低下した。次に、チルドおよび氷温熟成中のアミノペプチダーゼ C および H 活性の変化を評価した。その結果、アミノペプチダーゼ H は両試験区ともに熟成期間が長くなるにつれて活性は低下したが、この低下度合いは両試験区で差は見られなかった。一方、アミノペプチダーゼ C 活性は熟成期間中に変化はなかった。

本研究では、熟成温度の違いが総遊離アミノ酸の生成速度に影響を与えない理由について、アミノペプチダーゼ C および H 活性の相違から説明することはできなかった。これらの酵素の諸性質をより詳細に明らかにするため、組み換えアミノペプチダーゼの取得を試み、アミノペプチダーゼ H を高発現する株を創出することができた。今後、本研究で得られた組み換えアミノペプチダーゼ H を高発現する株からアミノペプチダーゼ H を精製し、熟成温度の違いによる活性の変化をより詳細に評価していく予定である。

実施成果

〔雑誌論文〕 計（ 3 ）件 うち査読付論文 計（ 3 ）件

（著者名、論文標題、雑誌名、巻、発行年、最初と最後のページ、査読の有無）

- 1 細見亮太, 岸本友里恵, 福田雄一, 中村潤平, 福間康文, 吉田宗弘, 福永健治. 氷温を利用した豚肉の長期熟成処理が一般生菌数および呈味成分濃度に及ぼす影響. 氷温科学, 22, 印刷中
- 2 中村好徳, 福間康文, 細見亮太, 細田謙次. 氷点下で未凍結貯蔵された牛部分肉のドリップロスに及ぼす包装種別と貯蔵日数の影響. 日本暖地畜産学会報, 63(2), 113-118, 2020年10月
- 3 細見亮太, 中村潤平, 福田雄一, 船山敦子, 福間康文, 吉田宗弘, 福永健治. 家庭用冷蔵庫のチルドルームを用いた牛および豚ロース肉の熟成処理が一般生菌数, 呈味成分濃度および食味性に及ぼす影響. 日本食品保蔵科学会誌, 46(3), 99-109, 2020年8月

〔学会発表〕 計（ 4 ）件 うち招待講演 計（ 0 ）件

（発表者名、発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所）

- 1 中村潤平, 細見亮太, 福間康文, 吉田宗弘, 福永健治. 熟成処理温度の相違が豚肉の生菌数および呈味成分に及ぼす影響. 第九回低温・氷温研究会, 2020年2月23日, オンライン.
- 2 坂本竜也, 中村潤平, 細見亮太, 吉田宗弘, 福永健治. 0℃以下の未凍結温度を用いた熟成が豚肉のタンパク質分解に及ぼす影響. 第九回低温・氷温研究会, 2020年2月23日, オンライン.
- 3 細見亮太, 中村潤平, 北野淳志, 坂本竜也, 吉田宗弘, 福永健治. 異なる熟成処理温度が豚ロース肉の一般生菌数および呈味成分濃度に及ぼす影響. 第35回氷温研究全国大会, 2020年11月12日, 米子.
- 4 中村潤平, 細見亮太, 船山敦子, 福間康文, 吉田宗弘, 福永健治. 家庭用冷蔵庫のチルドルームおよび冷蔵室を用いた熟成処理が牛肉の一般生菌数および食味性に及ぼす影響. 日本食品保蔵科学会第69回大会, 2020年6月21日, 東京.

〔図書〕 計（ 0 ）件

（著者名、書名、出版社、発行年、総ページ数）

〔出願〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）

〔取得〕 計（ 0 ）件

（発明者、権利者、産業財産権の名称、産業財産権の種類、番号、出願年月日、国内・外国の別）